

花川病院

症 例 概 要 患者：80歳代 女性

病名：脳梗塞 高次脳機能障害 第12胸椎圧迫骨折の術後 パーキンソン病

入院期間：2023年9月～現在

経過：2023年8月自宅で転倒、第12胸椎、第1腰椎圧迫骨折で経皮的椎体形成術施行された。その後嚥下障害、右麻痺あり、左島皮質に脳梗塞発症、経鼻経管栄養となり、リハビリ目的で2023年9月当院入院しました。

内 容

入院時、右麻痺は軽度でしたが、廃用による全身筋力、耐久性低下が著明で、ADLは全介助、経鼻経管栄養でした。

【入院時FIM 運動項目15点/91点 認知項目15点/35点】

腰部痛は自制内でコルセットを装着し車椅子離床、耐久性の向上、嚥下機能の改善、誤嚥性肺炎の予防を目標に取り組み始めました。

当院は入院時から歯科衛生士が口腔内の評価をします。当該患者さんは上下義歯がありましたが適合しておらず使用していませんでした。患者さん、ご家族と相談し新規に義歯作成することにしました。耐久性が改善し車椅子乗車が可能になった入院1か月後から歯科往診で義歯作成にとりかかりました。

パーキンソン病は10年前から診断され入院前から嚥下障害が起きていたとのことで、送り込みの低下、咽頭期の感覚低下、咽頭収縮減弱があり、嚥下障害の改善は難しいと考えられましたが、経口摂取はミキサー食・刻み食と順調に改善、入院1か月後に介助ではあるが3食経口摂取、10月末に義歯が完成し、常食、自力摂取となり、リハビリも順調に改善してきました。

現在、移動は歩行器見守り、排泄はトイレ、ADLも見守り、スタッフや他患者さんと談笑する場面が多く穏やかに入院生活を送っています。

入院時、ご家族は自分の口から食べられなければ自宅退院は難しいと言われていましたが、経口可能となり面会時も楽しそうに会話も弾み、退院に向けて調整中です。

【現在FIM 運動項目58点/91点 認知項目15点/35点】

今回の症例は経口摂取は困難かと思われていましたが、チーム医療の実践により、離床や耐久性、



ADL向上、経口摂取が確立しました。また義歯作成で常食になりパン、麺類も自力摂取ができ、食事のたびに「美味しい」を連発、表情も明るく、笑顔が多くなり、会話も増え「幸せホルモン」いっぱいです。

義歯作成し自力で何でも食べれることが自信となり、入院時とは別人のように明るい表情を取り戻した症例でチームで親身な対応の成果と考えます。